



学期末を迎えます。
 楽しい夏休みがきます。安全に気をつけて暮らさなければなりません。おうちの声掛けをお願いします。

どれだけの時間、心を動かし、 気にかけて暮らすことができるだろう

募金って？

7月6日(火)に児童朝会が行われました。執行部から先月行われた「あいさつ運動」の取り組みについてのまとめのお話がありました。そのあと、『みなさんから、先生方から』。何かありませんか?と司会が進行しました。これまでは「ありません。」の返事が聞こえるところ、今回は、高橋直哉先生がボランティアのお話をしてくだしました。



種市小学校では、毎年、ボランティア委員会が中心になって募金活動を行っています。「ユニセフ募金」と「赤い羽根共同募金」です。それらのお金がどのように使われるかを教えてくださいました。

○ユニセフ募金

- ・100円で
- ・ポリオの予防接種を子ども達に6回打つことができます。
- ・5Lの水をきれいにできる薬を250錠買えます。

○赤い羽根共同募金

- ・町をよくするため(街灯をつけたり)に使われます
- ・災害のときのボランティアセンターの運営に使われます

このようなことを教わった子ども達に期待したいことは・・・。

それは、「世の中に困っている人がいる

ということ」や「ボランティアのこと」を**気にかけて生活する**ということです。

「気にかけて生活する人」は、例えば、お小遣いでお菓子を買ったらそのお釣りのいくらかを募金のために貯めておくかもしれません。気にかけて生活する人は、食べ物を粗末にしないと思います。気にかけて生活する人は、自分のぜいたくを反省しおねだりすることを減らすかもしれません。そうやって、心を動かしてほしくて直哉先生がお話しました。募金のお金を持ってくる日、おうちの方に「募金代ちょうだい!」ともらってくるのではなく、ずっと気にかけてその都度その都度貯めたお金なら、たとえ1円玉ばかりだとしても、心のこもったお金と言えるのではないかと思うのです。ボランティアについて子ども達の心が動くように、できれば、“どれだけの時間子ども達が気にかけてくれるか”と期待して、このような話を募金の時期よりもずっと前(夏休みに入る前)にしたのでした。

「ボランティアの話」のもう1つの意味「みなさんから・先生方から」

児童朝会で『みなさんから・先生方から』。何かありませんか?と進行したところで、今回は、高橋直哉先生がお話をしてくだしました。『みなさんから』というところで、これからも、発表があってよいと思っています。ふざけたり自分勝手だったりする発表ではいけませんから何でもよいとはいきませんが、「みんなに関係あること」や「是非みんなに聞いてほしいこと」を**表現する場があってよい**と思います。それをみんなは、「なんだそんなことか」と言わないで、**伝えたいと思う人がいるなら聞いてあげる**ようでありたいのです。

教室では、「朝の会」や「帰りに会」にも『みなさんから』というのがあります。「学級のみんなに伝えたい・学級のみんなは聞いてくれる」が「**学校みんなに伝えたい・学校みんなが聞いてくれる**」になったらいいなあと願います。各学級や学年から「これを伝えよう」というものが出てきて、それを「みんなが聞いてくれる学校」になったらいいと願うものです。

1学期の「家庭学習週間」

中学校のテスト週間に合わせて、角浜小、宿戸小と一緒にやっている「家庭学習週間」です。種市小学校では、「やればできる」ということを知らせる取り組みをしています。1年生と6年生を紹介します。

6年生

家庭学習週間後に行うまとめの漢字テストの問題が予告されました。問題数は50問、合格ラインは90点。1週間計画的に練習に取り組んでの結果は、惜しくも1回で合格できないで再度挑戦した子どもいたものの、みんなが高得点。そして最後には全員が合格しました。

1年生

1年生は、算数の計算50問テストを行って、家庭学習習慣に取り組み前にすでに50問解いた子の中には、取り組み後にはもちろん50問解いたうえに、かかった時間を**4分台から1分半も縮めた子**がいます。また、**解けた問題数を20問以上も増やした子**もいます。担任の先生方が「**どの子もたくさん伸びたんです。**」と、うれしそうに教えに来てくださいました。

全体では

がんばり表があって、勉強時間の記録もすることにしてありました。全員分見せていただきました。家に帰ったらすぐに勉強している子が多いことに気がつきました。担任の先生の指導もあり、またおうちの方や学童の先生の声かけもあったのだらうと思います。また、ゲームなどの機器の使用もルールを守っている子がほとんどでした。

これも、子ども達を誉めてあげたいですし、おうちの方に感謝したいです。ありがとうございました。

勉強は“きれい”なもの？

大人はいつの頃からか、「人は勉強がきれい」とか「世の中に勉強が好きな人はいるものか」などと決めつけてしまいがちです。「勉強が嫌いな方が人間味がある」などというイメージもあるかもしれませんが本当でしょうか。

子どもは「不思議」をいっぱい持っています。好きな工作をずーと作っていたりします。もうすぐ夏休みですが、「自由研究は何をしようか」とか「今度の工作は何を作ろうか」と、胸膨らませている子ども多いはず。冬休みに途中でくじけた子でも「今度は！」とやる気に燃えている子どもいることでしょう。

子どもは、「やりたい」し「やってみたい」と思うものです。また、授業中も目を輝かせて取り組む瞬間を見るたびに、さらには、必死にノートに向かう姿を見るたびに、「**この子ども達に、「勉強が嫌いにならないように」・「自分から勉強に向かうように」できないか**」を挑戦していきたいと考えています。まずは、

- ・やればできることを分からせること
- ・「おもしろい」と興味がわくものを見つけさせることからがんばっていきます。

「何かおかしくないですか」子ども達へ

「あいさつ」がたくさん聞かれるようになりました。一方で、気になることもあります。

先日、家庭科準備室の入り口に貼ってある「**ここには入りません**」の表示が折り曲げられてゴミ箱に入っていました。その前にも一度外れていたのを先生が戻したばかりですが今度はゴミ箱に。たまたまでしょうか？それとも誰かがやってしまったのでしょうか？いたずらでしょうか？何か嫌なことがあった子がいるのでしょうか？我慢できないくらいモヤモヤしている子がいるとしたら助けてあげなければいけません。そのうえで、「してはいけないことだ」と教えてあげなければいけません。

「**貼ってあるものが破れない・展示している作品がこわれない**」という学校にみんなできてきて、だからたくさんの掲示や展示を自由に見て楽しむこともできるのに、逆に壊れたりするようではその楽しみも自由もなくなってしまいます。

また、元気にあいさつするもののドタバタと走って行く子どもいます。校外では、ヘルメットをかぶらないで自転車に乗っている子はいないでしょうか。何だかおかしくないでしょうか。

「種小ラジオ」で1学期にがんばったことが発表されています。休み時間には、ボランティアで中庭の草を取ってくれている子どもいます。よい行いが行われたたくさんの子ががんばりを発表できるようになった1学期ですが、「何だか、おかしいな」ということも見られます。「注意される・されない」ではなく、自分の行いが正しいと思えるかどうかを「**自分で考えて行動**」しなければなりません。あと3日で1学期が終わります。ただ3日を過ごすのではなく、自分のまとめとしてふさわしい行動か考えて締めくくりたいです。